

経営比較分析表（令和6年度決算）

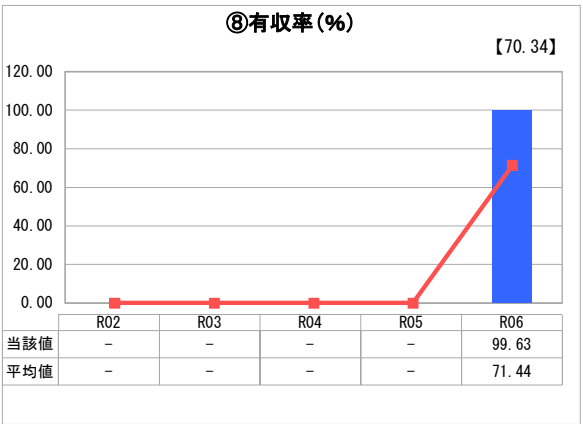
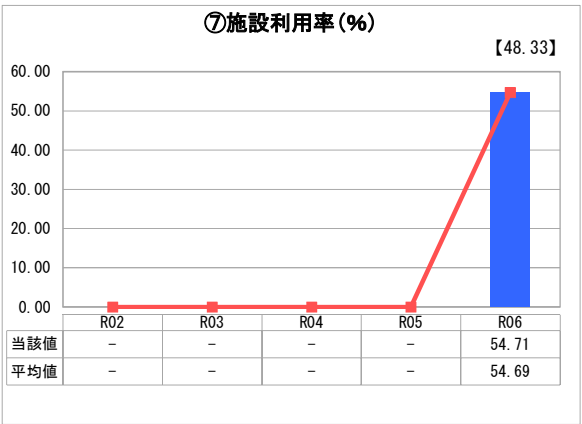
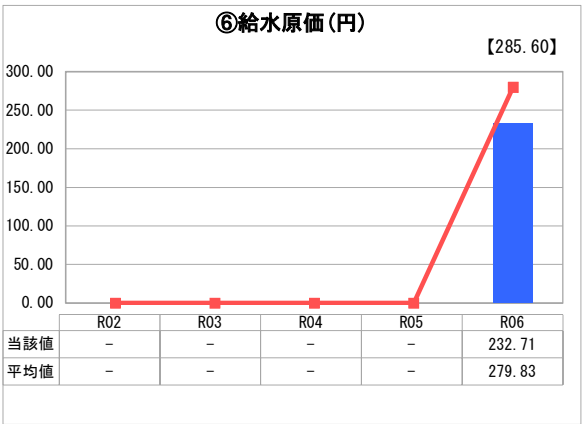
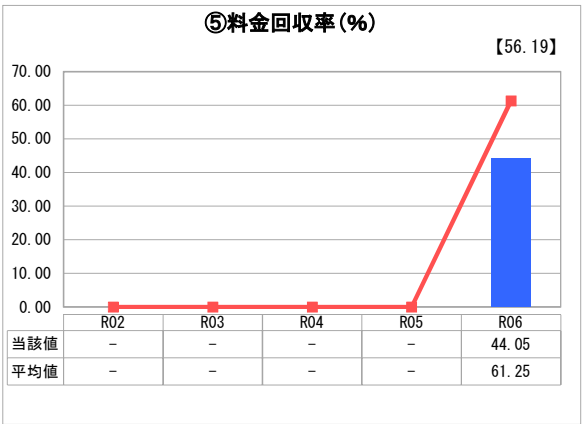
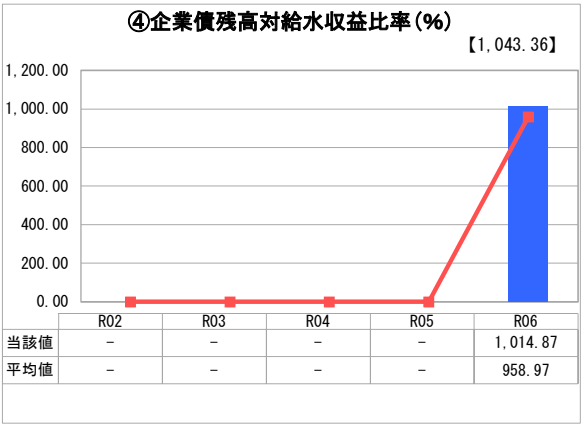
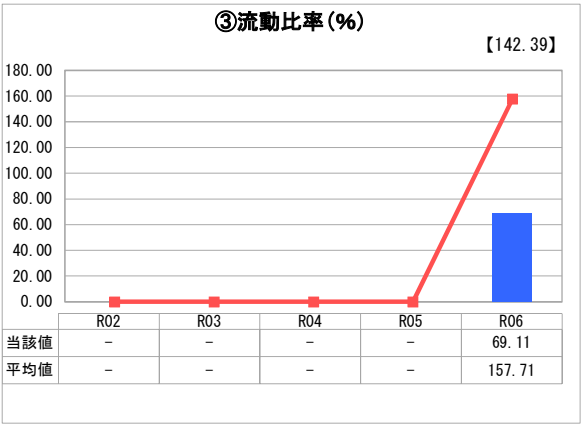
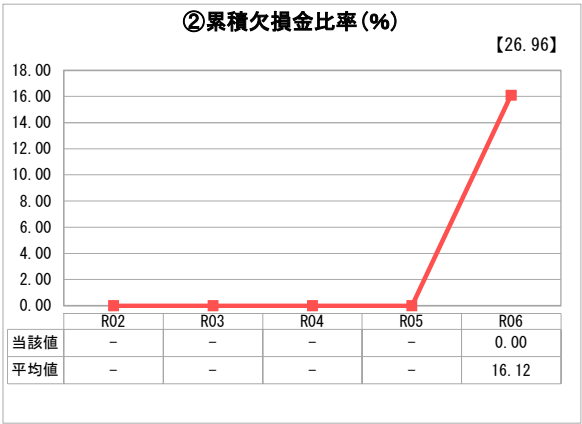
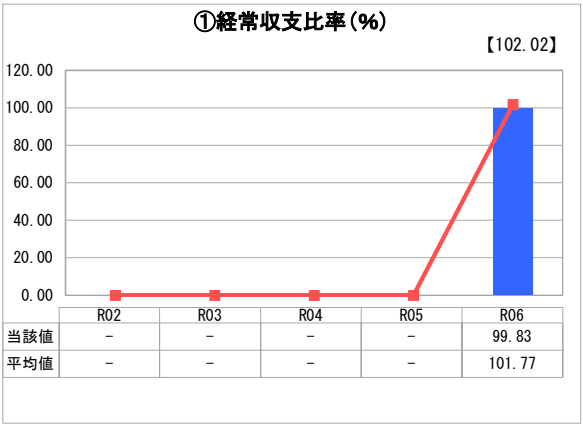
宮崎県 五ヶ瀬町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	簡易水道事業	C3	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	77.41	71.09	2,970	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
3,278	171.73	19.09
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
2,253	9.48	237.66

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



1. 経営の健全性・効率性について

①本町簡易水道事業は、令和6年度に法適化した。年度当初において、法適化前の予算残高を繰越し、それを加味した上で、一般会計からの繰入金を算定しているため、比率については100%を下回った。令和6年7月に水道料金について35%値上改定を行っているが、今後も定期的な料金の見直しを実施する。

②法適化初年度であり、累積欠損金は0である。

③流動比率について100%を大きく下回っているが、流動負債の6割が建設改良費等に充てられた企業債であり、これらで整備した施設により給水収益等を得る予定である。

④建設改良費に充てる企業債が増加しており、今後も給水区域の拡張を予定しているため、増加する見込みである。

⑤⑥先述のとおり、料金改定を行ったが、まだなお供給単価が給水原価に対して低い。今後も適切な料金回収に努める。

⑦給水人口に対して、多くの施設を設置しなければならない状況であるため、当分は現状維持となる。

⑧有収率については、法定耐用年数超過管の割合が小さく前年度と同等で推移している。

令和6年度に料金改定を行ったが、経営改善のために、今後も料金水準の見直しを定期的に行う必要がある。

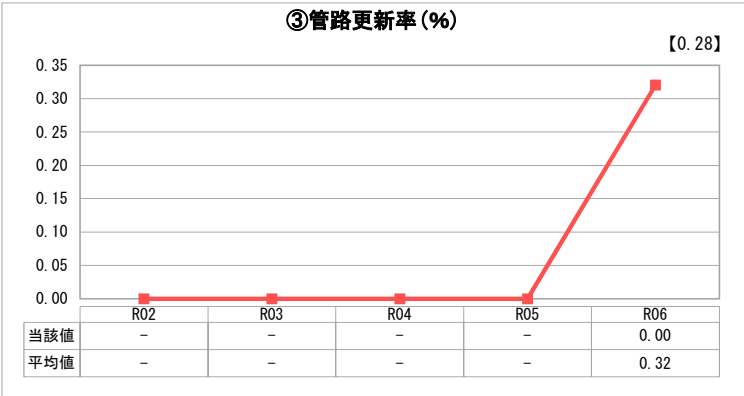
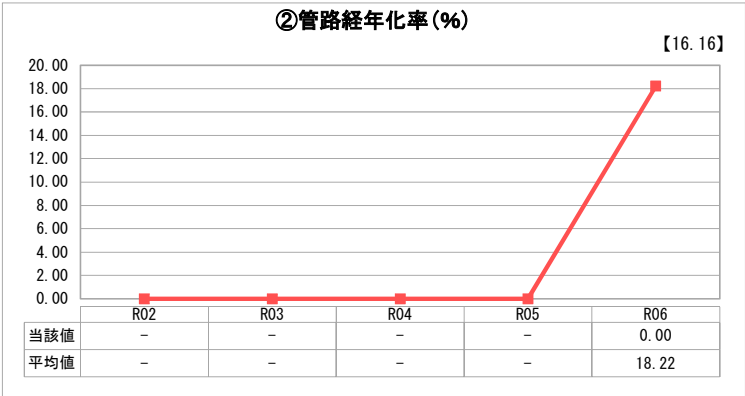
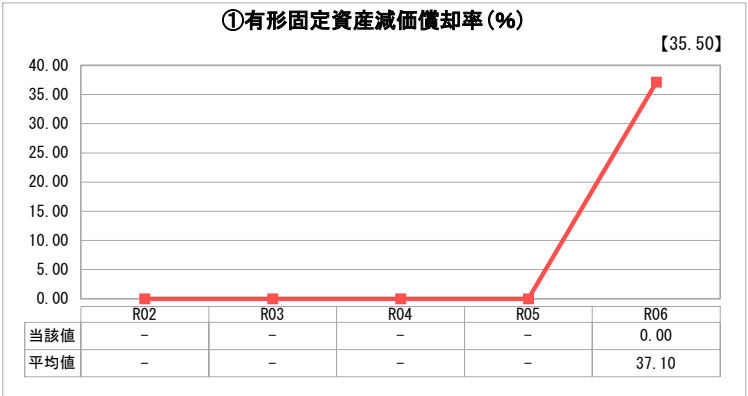
2. 老朽化の状況について

①他団体と比較して低い数値である。（報告の数値に誤りがあり、当該値は4.74%である。）

②③法定耐用年数超過管なし。

今後の見通しとして、管路の更新時期を迎える地区が重複することが予想されるため、漏水の状況等踏まえ、優先順位を決めながら、計画的な更新を行っていく。

2. 老朽化の状況



全体総括

本町簡易水道については、今後、2地区の地元管理の簡易水道及び1地区の小規模水道について、改良・統合する計画となっているため、建設改良費に充てる企業債を主として、多額の負債を見込んでいる。そのため、経営戦略の見直しとそれに則った適切な料金回収による経営改善を図る必要がある。